

# やまぶき

埼玉北西部の和算研究の個人通信  
(題字 伊藤武夫氏)

## 毛呂山の算者の落穂拾い

### 一、はじめに

生まれ育った毛呂山町には算額は存在しないようです。また和算家の実績も承知しませんでした。

それでは毛呂山近在の算術師匠に入門し、算学を学んだ門人はいないのだろうか。

一昨年当たりから何人かの門人名を確認できたので少し述べたい。

### 二、吉田勝品の門人平山山三郎

小川町勝呂の吉田源兵衛勝品(文化六年〜明治二十三年)は小川町笠原の福田重蔵に關流和算を学んで、「關流九伝免許皆伝」(九伝というのは辻褃が合わないのだが)を受けた人物ですが、「吉田勝品一代誌」というものを残しています。この「一代誌」は八十七丁に及ぶ長文で、当時の和算家の生活を知ることが出来る貴重な史料でもあります。幸いこの

第10号 平成二六年(二〇一四)八月一日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

山口 正義

史料の複写を小川町教育委員会から入手することができました。

この書物の中に、「隠居以来、明治二年二月算術指南小川村永井永五郎、大塚村伊藤政七開平迄傳授、同四年末八月小川村白木屋廣森藤吉免許出す、同五年申正月小川村笠間茂兵衛外にも門弟大勢あれ共、開平法以上高弟而已書す。同年七月平山村山三良、同久平、同八月青山村恩田與兵衛、……」のように色々な人達に算法を伝授した記述があります。この中に傍線で示したように「平山村山三良」の記述があります。また、勝品が与えた「算法免許次第」の記述が、小川村・川越宿などの四名と並んで次のようにあります。

一 明治十丑年三月二日 平山村 平山山三



### 良 同断(算法免許)

その後、勝品の実家には明治十一年に門人たちが勝品の七十歳を祝して建てた「寿蔵碑」があることを知ったので、昨年見学させていただきました。その碑には門人三十名の名が刻まれていて、その筆頭に、「免許 岩井 平山山三良」とあるのが確認できました。

平山村が馬場村などと合併して岩井村になるのは明治八年ですから、碑にある「岩井」は納得できます。平山村と岩井村の両方が出てくるので、平山山三良が毛呂山の人であるのは間違いないと思います。

なお、先の「吉田勝品一代誌」に出てくる「平山村山三良、同久平」の同久平については不明です。

さて、この平山山三良(郎)は毛呂山の「平



勝品の寿蔵碑と平山山三郎の文字(小川町勝呂)



山大尽」の直系の人物であることなどを内野勝裕氏に教えて頂きました。

「平山氏」は後世(明治)になってから改姓されたもので、その前は「斉藤氏」でした。

斉藤氏は松山城主上田氏に仕え、天正十八年

(一五九〇)松山城落城とともに帰農したといわれます。

内野氏の「平山村明細帳」(「あゆみ」第8号)によれば後の平山大尽になる

豪農の家系は享保年代の初代富世(通称山三郎)から始まり、富栄(六右衛門)↓富秀(文

右衛門)↓富吉(牛十郎・学右衛門)↓富延

(平治郎・山三郎)↓易富(実平・左司馬)

↓富樹(左二馬)↓山三郎↓庫治と続いています。

富吉からは代々平山村の名主を勤めています。

左司馬は権田直助との交遊もあり、早くから国学を志し、安政六年平田篤胤の門

に入っています。そして左二馬の代には「平山氏」に改姓しています。

左二馬は岩井村戸長や毛呂村初代村長を勤めています。

なお平山家に伝わる七千点を超える膨大な古文書は

埼玉県立文書館に「平山家文書」として収納されています。

平山山三郎はこの家系による八代目であり、

墓石によれば安政二年(一八五五)十二月十七日生れで、

明治三十七年に家督を継いで、昭和二年に七十三歳で亡くなっています。

既述の一代誌に出て来る「同年七月平山山三良」は

明治五年で、十八歳の時入門したのでしょ

う。「寿藏碑」の明治十一年のときは二十三歳

ということになります。

また妻「きょう」は、墓石によれば比企郡

腰越村(小川町)の横川氏の出であり、明治

十一年四月に山三郎と婚姻とあります。

墓の正面は「平山山三郎大人 平山きょう

刀自 墓」とあります。

腰越村と勝品の勝呂村とは5km位離れては

いるものの、それでも岩井村(毛呂山町)から

凡そ30kmも離れた勝呂の勝品の門人になつたのは、

妻の実家との位置関係が影響していたのでしょうか。

次に、平山山三郎の算術に関する資料が「平山家文書」

にないか調べてみましたが見つけれませんでした。

が、算術の資料として、「算法記」(嘉永三年 齊藤平馬)

なるものを見つけたことができました。

この算法記にある「齊藤平馬」は内野氏によれば

左二馬(山三郎父)の幼名であるといえます。

毛呂山町史には左二馬の墓石の碑文が書かれて

いますが、それによれば天保三年(一八三二)

生まれとありますから、算法記にある嘉永三年

は十八歳ということになります。

この算法記の概要は次のようになります。

表紙・算法記 嘉永三年 戌二月吉日

裏表紙・齊藤平馬 (他に文字あり)

構成・十三丁、横半切12×16cm

内容…開平法・開立法・単純図形の面積・利足算・位附など

開平法は十一問、開立法は八問、単純図形は七問の問題と答が記述されていますが、い

ずれも結果のみであり、そろばんで計算した結果

と思われれます。何かの算書を真似したのかと思

い調べてみましたが、塵劫記などに類似問題がある

ものの、同じ問題は見つかりませんでした。

平方根・立方根が $100$ とか $1000$ になるような数字

を選んでるのは面白いところです。

円積では直径三十間の面積を、円積率 $\times 30 \times 30$

坪としています。本来の円積率は $(\pi/4)$ だが、こ

こでは $0.78$ を用いています。

また $10$ 坪を畝歩に変換して示しています。

それは「二反三畝二十一歩」とあり、計算してみると

正しい。

これらの問題や利足算は当時の実用算の範囲

だったが、一般的な寺子屋教育の範囲を越えて

いて、算学塾で習ったものと思わ

れます。

左二馬(平馬)がどこの

「算法記」表紙



誰に習ったか気になるところです。

### 三、宮崎萬治郎の門人

ときがわ町大附の宮崎萬治郎（文化五年・明治十六年、本誌第6号参照）は墓の碑文によれば、天文・暦法・医易、さらに数理を究めたとあります。大工が本職であったようですが、碑文には書かれていません。近隣を教え歩き多くの門人がいたようで、墓の台石には、「大字本宿岡田軍治郎を筆頭に、大谷、長瀬、岩川、小山、小杉、西本、大豆戸、五明、腰越、桃木、田中、志賀、日影、其の他の人々が多く姓名を列して居るが、甚だ読み易くない。そうして門人計三百人と記す」（「武蔵比企郡の諸算者」三上義夫、埼玉史談1971年）とありますが、今はほとんど読むことが難しい。『都幾川村史』には門人・世話人等六十名が刻まれているとあります。

宮崎家には入門時に血判した「神誓文之事」（誓約書）が四巻残されています（筆者もその一部を今年見せていただいた）。「都幾川村史」によれば四巻で七十三名の門人名が記されていて、それは文政十二年から明治元年迄です。『都幾川村史資料4（6）』には門人の具体名が記されていますが、その中に毛呂山に關係するものとして次の四名がいます。

嘉永元年十月吉日 武州入間郡養和田村 廿四才 音次郎（血判）

嘉永二年正月吉日 武州入間郡箕和田村 二十才 栄次郎（血判）

嘉永七年寅正月 武州入間郡長瀬村 廿三才 千松（血判）

嘉永七年三月吉日 武州入間郡平山村 廿一才 丈七（血判）

このうち「千松」は、内野氏によれば大正時代に県議會議員・衆議院議員を勤められた齊藤小十郎の父親であるといえます。

### 四、まとめ

このように江戸末期から明治初期に、毛呂山でも算術師匠について算学を学んだ具体的事例を知ることができました。なお、吉田勝品は「算法九章名義記秘術帳」を著していません。それは田畑面積・両替・利息算・連立一次式・勾股弦・多角形・開平・開立など初歩的な内容を含んだもので、山三郎もこれらの内容を理解したのでしよう。

謝辞・内野勝裕氏には平山氏及び宮崎萬治郎門人について多くのことを教えて頂きました。お礼申し上げます。

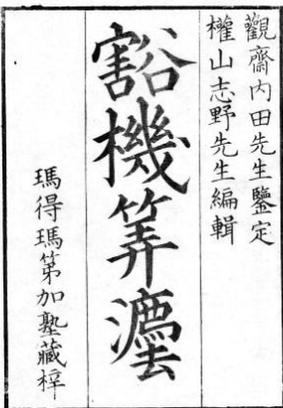
### 【野口文庫の紹介】

#### 『豁機算法』

『豁機算法』は内田五観の門人志野知郷（もさと）が天保八年（一八三七）に著した五観一門の算額集です。穿去問題や転距軌跡の極めて難しい問題が含まれています。

八（自叙）・十七（乾之巻）・十三（坤之巻）・三（廣告）丁の構成。つまり乾坤二巻ですが一冊になっています。尤も最後の三丁の中にある豁機算法の広告には二冊とありますから綴じ方が色々あるのかも知れません。内表紙には「観齋内田先生鑒定 権山志野先生編輯 豁機算瀧 瑪得瑪第加塾蔵梓」とあります。瀧は難字ですが辞書によると法の古字とあります。本文最初には「紀州 志野知郷編輯 志州 杵田直孟校訂」とあります。

自叙は前半で暦算の歴史を述べ、後半に師

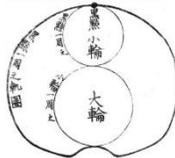


の内田五観の功などを述べています。「吾観齋内田先生博覽多通尤モ此道ニ刻苦シ

タマヒ前人未発ノ義ヲ發明シ其隱微ヲ窮メ既ニ文政ノ始メ弱冠ナラスシテ関氏ノ宗統ヲ受ケ術ノ精妙其天稟ニ出ツ(略)余業ヲ先生ノ門ニ受ケ淬勵發憤シテ斯ニ従事シ砌磋琢磨シテ蘊奥ヲ叩推スルコト茲ニ年アリ嚮ニ我黨新タニ解スル所ノ術ヲ題額ニ彫リテコレヲ神廟佛宇ニ掲ケ徧(あま)ク是正ヲ有識ニ誦ル然レトモナラ天下ニ普カラス又風霜ノ銷磨モオソルヘケレハ頃日其題術若干則ヲ輯メテ一書トシ餘機算法ト題シコレヲ剗刷氏彫り師ニ授ケシコトヲ請フ(略)

最後に「天保八年丁酉孟春紀藩権山志野知郷操夫氏識」とあります。

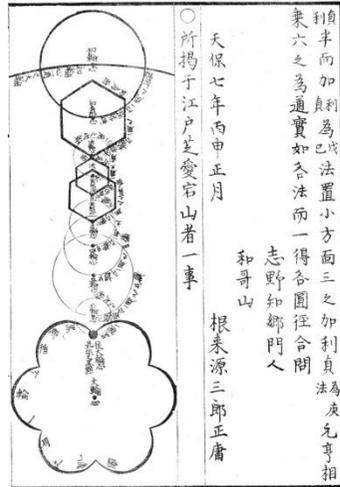
天保三年五月に内田門人の上州館林藩佐野忠七という人が常州筑波山に掲げた転距軌跡の問題は文献に見える最初のものであるといえます(明治



$$S = \frac{\pi}{4} \{ (D-d)(D+3d) + 6d^2 \}$$

前日本数学史』。この問題は、大輪の周上を小輪が回転するとき小輪の周上の一点が描く軌跡の長さ(面積)を求めます。加藤平左エ門の「行列式及円理」によれば、この時の面積は下の式のように表されます。驚くのはもっと複雑な図形の求積問題が載っています。次の図は江戸愛宕山に掲げたもので、大輪の周上を正六角形が、その周上を小円が、その周上を小さい正六角形が、さらにその周上を

中六角形が…と複雑に入り交じって並べられた場合の黒点の軌跡の周長や面積を求めるもの。大変な難問で私には及びもつかないものです。



下表に本書の掲額場所・問題数などを示します。

編集後記

去る七月二十二日、会社員時代の仲間達四人で大菩薩嶺登山を行いました。当日は丁度梅雨明け宣言の日で、天候は申し分ないと思いきや、登るにつれて霞がかかったような状況になり、遠くの景色はあまりよく見えませんでした。期待していた富士山も全く見ることができませんでした。水蒸気が地上から上がった結果なのでしょうか。

それでも、皆さん文句も言わずいい汗をか

	場所	題数	時期	掲額者	
乾之巻	相州鎌倉鶴岡八幡宮	6	文政3年正月	志野庄之助知郷	
	常州筑波山	3	文政3年5月	佐野忠七盛門	
	相州高座郡寒川明神社	3	天保4年11月	入澤勘解由行篤	
	下総州銚子観世音堂	3	天保5年正月	松本和助燕	
	能州羽咋郡氣多社		3	天保5年5月	狩野栄太郎貞寛
			3	天保5年5月	廣田八郎右衛門信成
	江戸麹町天満宮	3	天保5年9月	津村三菴祐三	
	武州府中六所明神社	3	天保6年5月	松田清九郎直孟	
	江戸四谷天王社	3	天保6年11月	齊藤貫之進為儀	
	志州答志郡伊雑宮	7	天保6年11月	松田清九郎直孟	
坤之巻	江戸青山熊野権現社	2	天保5年正月	山田金之助元永	
	野州日光中禅寺大黒天堂	2	天保9年9月	石井八十吉特審	
	泉州日根郡竜王社	2	天保6年5月	藪内篤平符簾	
	紀州名草郡日前社	2	天保7年正月	根来源三郎正庸	
	江戸芝愛宕山	3	天保7年11月	坂本権平重正	
	江戸本所柳島妙見堂	11	(采兆沼灘黄鐘日)	志野知郷撰 松田直孟訂	
	計16面	59			

いて爽快でした。中期高齢者に属す身としては安全第一ですが、心配していた膝の痛みもほとんどなく、無事下山しました。そして麓の雲峰寺の桜の木には、その大きさにびびくりしました。咲いているときに是非見たいと思います。暑い！

毎日の暑さにめげないように、和算の勉強も行いたいと思えますが、暑い！